

2020年度 日本文化人類学会  
第5回理事会 議事録

日時：2021年2月28日（日）14：00～18：00

会場：Zoomを使用したオンライン会議

<出席者>窪田幸子、東賢太朗、飯嶋秀治、飯田卓、石井美保、岡田浩樹、小川さやか、  
亀井伸孝、川口幸大、木村周平、湖中真哉、里見龍樹、椎野若菜、曾我亨、中川理、  
名和克郎、真島一郎、丸山淳子、箕曲在弘（以上、理事）、

岸上伸啓（以上、監事）

<委任状提出者>田辺明生、松村圭一郎、森田敦郎（以上、理事）、

三尾裕子（以上、監事）

**〔承認事項〕**

1. 第4回理事会議事録（案）について承認。
2. 新入会員・再入会員の承認
  - ・8名の新入会員、4名の再入会員につき業務執行理事の間で入会を承認したことを報告し、事後承認。
3. 会費特例措置の承認
  - ・2件の会費特例措置の申込について、業務執行理事の間で承認したことを報告し、事後承認。

**〔報告事項〕**

1. 代表理事報告
  - ・前回理事会で学術会議の任命拒否問題に対する本学会の声明文の掲載を承認した、書籍『私たちは学術会議の任命拒否問題に抗議する』（論創社）が出版され、学会宛に献本があったことを報告。
2. 業務執行理事（庶務担当）報告
  - ・役員の変更登記手続きの進捗状況について、理事からの書類回収が完了し3月中旬に法務局へ提出予定であることを報告。
  - ・前回理事会以降の理事会メール審議1件：
    - 日本学術会議から依頼のあった「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（中間報告）」に関するアンケートについて、メール審議の結果、回答を行うことが承認され、回答を行ったことを報告の上、事後承認。
  - ・次年度の澁澤賞選考委員について、前回理事会で承認された推薦者から内諾を得、澁澤民族学振興基金への推薦を行ったことを報告。
  - ・大学改革支援・学位授与機構から認証評価委員会専門委員候補者推薦依頼があり、業務執行理事で検討の上、推薦を行ったことを報告。
  - ・京都大学東南アジア地域研究研究所、京都大学人文科学研究所、鹿児島大学島嶼教育研究センター、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所より共同利用・共同研究拠点認定申請に関する要望書の提出依頼があり業務執行理事で検討の上、要望書

を作成、提出したことを報告。

3. 業務執行理事（会計担当）報告

- ・清水展会員から寄附金を受領したことを報告。今後、各委員会から使途の提案がある場合には、受け付けて検討することを説明。

4. 業務執行理事（総務担当）報告

- ・2020 年度人類学関連学会協議会（CARA）合同シンポジウムについて報告。本学会から新ヶ江章友会員が登壇し、オンライン画面上では最大 99 名ほどの参加を確認できたことを報告。
- ・2021 年度 CARA 合同シンポジウムについて報告。2021 年 10 月 11 日開催、テーマは「ソーシャルディスタンス」であること、オンライン開催となることを説明。登壇者は業務執行理事で検討の上、左地亮子会員（東洋大）に依頼し、承諾を得たことを報告。

5. 業務執行理事（広報担当）報告

- ・前回理事会以降、8 件の JASCA-INFO を配信したことを報告。北陸地区の懇談会発信が遅れたことをお詫び。

6. 各種委員会報告

- ・『文化人類学』編集委員会：石井理事、川口理事、湖中理事より、85 巻 4 号以降の進捗を報告。
- ・JRCA 編集委員会：東理事より、Vol. 21-1 の刊行と 21-2 の進捗、22-1 以降の投稿状況について報告。
- ・研究大会実施委員会：中川理事より、第 3 回サーキュラーの内容など進捗状況。
- ・研究大会プログラム委員会：小川理事より、第 55 回研究大会プログラム案の説明。台湾人類学会との合同シンポジウム、GEAHSS シンポジウムの開催を予定していること、大会 1 日目に社員総会を開催することを報告。学会賞受賞記念講演、奨励賞受賞スピーチは画像でアップロード予定であること、2 日目の予定についても報告。
- ・男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会：椎野理事より、3 月 28 日開催の GEAHSS 主催シンポジウムに登壇予定であることを報告。
- ・地区研究懇談会：各地区研究懇談会の開催予定等について報告。
- ・医療者向け人類学教育連携委員会：木村理事より、医学教育モデルコアカリキュラムに人類学が導入されたことにより、各医学部で医療人類学、医療社会学等の科目が入っていることが説明された。およそ 5 年おきにカリキュラムの見直しがあり、継続して人類学がカリキュラムに採用されるよう、学会からも要望書を提出するべく、委員会で検討、作成中であることを報告。
- ・倫理委員会：亀井理事より、アイヌ遺骨等、研究倫理に関する 4 者協議がコロナにより止まっていたが、再開したことを報告。会議には太田好信委員が参加、今後の理事会で報告予定。

7. その他

- ・窪田代表理事より、文部科学省の外郭組織である公正研究委員会からの依頼により、本学会のコロナ禍での取組について 2 月 19 日に講演を行ったことを報告。
- ・窪田代表理事より、日本学術会議について、本学会が関係する各分科会の動向を報告。

**[審議事項]**

1. メール稟議のルールについて
  - ・業務執行理事（庶務担当）の箕曲理事より、メール稟議のルールについて原案が提示された。先日回答フォームを使用した方法に大きな問題が無かったため当面この方法をとること、意見が分かれたときなど最終的な判断は総務会に一任することを確認した。審議の結果、原案が承認された。
2. 日本学術振興会賞推薦依頼について
  - ・業務執行理事（庶務担当）の箕曲理事より、例年どおり理事から推薦を募った上で審議し、推薦者を確定して推薦を行うことが提案された。本件については募集期間を十分にとるため、業務執行理事で検討の上、理事会 ML で推薦依頼を配信済みであることが報告され、事後承認された。
3. 名誉会員の推戴について
  - ・業務執行理事（庶務担当）の箕曲理事より、前回理事会以降、理事からの第二条第二項による推薦が無かったことが報告された。従って 2021 年度社員総会では第二条第一項に基づく 1 名の推薦を行うことが承認された。
4. 2020 年度事業報告・2021 年度事業計画について
  - ・業務執行理事（庶務担当）の箕曲理事より、資料に基づき説明があり、項目ごとに確認を行った。各担当委員会の記載内容やその他気づいた点などあれば箕曲理事へ連絡することとした。
5. 2020 年度決算について
  - ・業務執行理事（会計担当）の里見理事より、暫定版決算案について説明がなされ、内容について確認を行った。
6. 2021 年度予算について
  - ・業務執行理事（会計担当）の里見理事より、予算案について説明がなされ、内容について確認を行った。委員会の開催をオンラインで行うかどうかについて各委員会で検討し、旅費の要望があれば里見理事と事務局へ連絡することとした。
7. 植松東アジア研究基金の成果報告書、会計報告書について
  - ・植松基金管理委員会委員長の里見理事より、初めての報告を控え委員会で作成した報告書の各書式が提示され、審議の結果、承認された。
8. 植松東アジア研究基金の募集について
  - ・植松基金管理委員会委員長の里見理事より、2021 年度募集要項案と応募申請書案が提示され、審議の結果、承認された。
9. 来年度“JRCA”の刊行形態について
  - ・“JRCA”編集主任の東理事より、科研費補助金終了後の“JRCA”の刊行形態に関し委員会で審議した内容について報告がなされた。委員会において様々な提案が出たが、本件については時間をかけて議論すべきであるとの説明がなされた。
  - ・窪田会長より、“JRCA”と科研費事業との関係などのこれまでの経緯が説明された。
  - ・『文化人類学』掲載論文の英文長文要旨を“JRCA”に掲載する現在の方式についても別途検討が必要であることを確認した。
  - ・オンラインジャーナル化、発送費削減のため発送時期を和文誌と合わせる、会計支出の安定化のために 1 号あたりのページ数を定める等の提案が出され、意見交換の結果、現在の刊行スタイルを 1 年間は維持しつつ、2022 年度からの刊行形態について

検討を行うこととした。今後の刊行に関する検討をおこなうワーキング・グループの設置を含め、引き続き検討を行うこととした。

10. 学会賞・学会奨励賞について

- ・第 16 回学会賞について、選考委員会案が提出された。選考経緯等の説明に基づき審議が行われ、投票の結果、原案通り承認された。
- ・第 16 回学会奨励賞について、選考委員会案が提出された。選考経緯等の説明に基づき審議が行われ、投票の結果、原案通り承認された。
- ・両賞の授賞理由書の作成については業務執行理事へ一任することとし、選考結果については、速やかに学会ホームページへ掲載し、JASCA-INFO で配信することとした。

11. 若手研究者支援イベントの開催について

- ・研究育成委員会委員長の椎野理事より、現代文化人類学会と共催の若手研究セミナーを検討中であることが報告され、審議の結果、承認された。
- ・上記セミナーを含めた活動に際し次世代支援ワーキング・グループを設置し、活動したいとの提案があり、審議の結果承認された。
- ・若手支援のためにジャーナルの電子化（オンライン公開）の早期化にむけて理事会で検討してほしいとの提案が出された。
- ・コロナ禍やクーデターで調査に行けない若手がどのようにしているかヒアリングを実施予定であること、クーデター等でフィールドへ行けなかった経験のある人に話を聞くイベントを計画中であることが報告された。

12. ギース第 6 期幹事学会要請について

- ・男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会委員長の椎野理事より、GEAHSS の副幹事学会を本学会が今年秋に引き受け、その後、来年秋には幹事学会を引き受けることについて提案があり、同時に予算措置も必要となることも説明がなされた。審議の結果、承認された。
- ・オンライン研究大会で託児を実施することについて提案が出された。審議の結果、今年からの導入は困難であることから、来年以降のオンラインの場合の育児補助可能性について、研究大会運営検討委員会で検討を行うこととした。
- ・GEAHSS と FENICS の共催シンポジウムを今年の研究大会で開催すること、共催シンポジウムへは会員外の人も参加可とすることが提案され、審議の結果、承認された。

13. 課題研究懇談会継続申請について

- ・研究推進委員会より、今期活動中の課題研究懇談会より 1 件の継続申請が出ていることが報告され、新規メンバー申請を含め承認することが提案された。審議の結果、委員会提案が承認された。

14. 『文化人類学』ウェブ公開について

- ・『文化人類学』編集委員の飯田理事より、J-STAGE の認証期間を現行の 1 年から認証無しへ移行することが提案された。具体的には、86 巻 1 号へ ID とパスワードの再挟み込みを行うこと、2022 年 6 月末の 87 巻 1 号刊行から認証無しの公開へ移行することが提案された。新刊販売における学会収入は減る可能性があるもののオンライン化によって会員が得られるメリットの方が大きいことなど、議論の結果、提案が承認された。

15. ウェブジャーナルの刊行および Facebook での情報発信について

- ・窪田代表理事より、ウェブジャーナルの可能性を考えるためのワーキング・グループ

の立ち上げについて提案がだされた。意見交換の結果、査読や人材、予算に関する懸念や、査読の必要のないブログやフェイスブックによる情報発信の提案があり、再度提案者に確認することとした。

16. その他

- ・ 2021 年度第 1 回理事会日程：近日中に連絡予定

以上